

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第44週 (10/29-11/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		44週	43週	42週	41週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	10/29-11/4	10/22-10/28	10/15-10/21	10/8-10/14	10/22-10/28
			44週	43週	42週	41週	43週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	2 0.11	3 0.17	4 0.22	45 0.33
	咽頭結膜熱		3 0.17	1 0.06	3 0.17	1 0.06	40 0.30
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	40 2.22	38 2.11	19 1.06	22 1.22	294 2.18
	感染性胃腸炎	○	78 4.33	66 3.67	60 3.33	69 3.83	377 2.79
	水痘		2 0.11	1 0.06	0 0.00	2 0.11	27 0.20
	手足口病		27 1.50	30 1.67	29 1.61	27 1.50	194 1.44
	伝染性紅斑		9 0.50	17 0.94	12 0.67	8 0.44	112 0.83
	突発性発しん		8 0.44	6 0.33	14 0.78	13 0.72	39 0.29
	ヘルパンギーナ		1 0.06	5 0.28	8 0.44	8 0.44	30 0.22
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	3 0.17	4 0.22	13 0.10
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		5 0.18	10 0.36	8 0.29	2 0.07	41 0.19
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		7 1.40	13 2.60	2 0.40	5 1.00	39 1.11
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(15件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	40歳代	抗体の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査	百日咳	男性	50歳代	抗体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	90歳代	病原体等の検出等	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	70歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出	風しん	男性	60歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	10歳代	血清IgM抗体の検出
百日咳	男性	40歳代	抗体の検出	-	-	-	-

*第44週は、結核4件(147)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(21)、百日咳6件(194)、風しん4件(76)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第44週のコメント

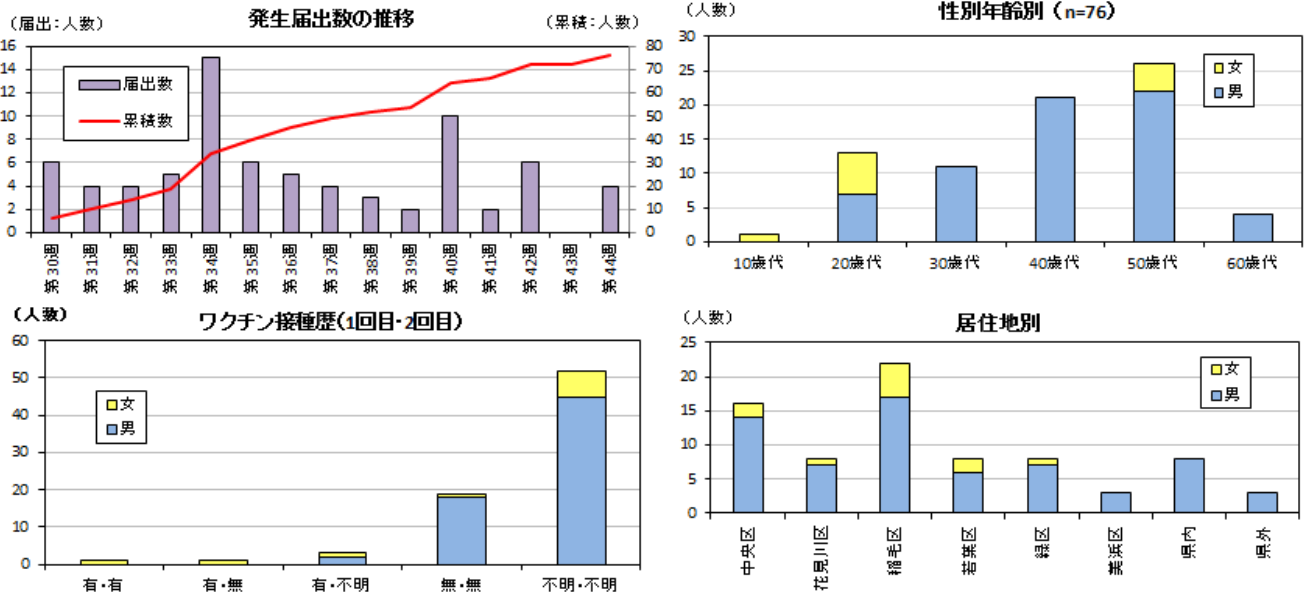
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.22となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<感染性胃腸炎> 前週より増加し4.33となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ例年並み。例年の発生動向によると、今後増加する傾向が高い。

■ トピック ■

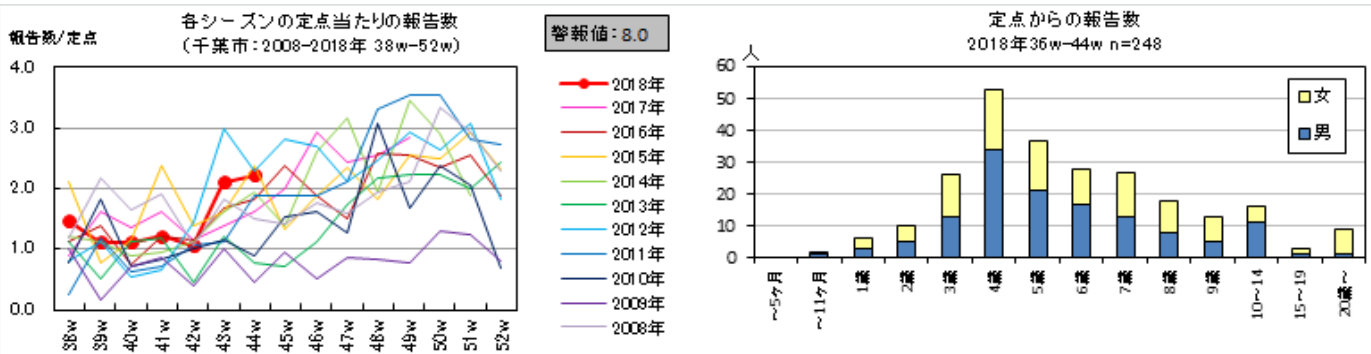
<風しん>

全国レベルの第43週の累積報告数は1692件で、昨年の同時期と比べると20倍を上回っています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県順で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第44週は4件の発生報告があり、2018年の累計は76件となっています。性別は男性が85.5% (65名)、女性が14.5% (11名)で、年齢階級別は、50歳代 (34.2%:26名)、40歳代 (27.6%:21名)、20歳代 (17.1%:13名)の順で多く、40歳代~50歳代の男性が中心となっています。患者におけるワクチン接種歴は、無し又は不明が9割を超えています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第43週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では石川県、北海道、鳥取県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第44週は前週より増加し2.22となり、過去10年の同時期と比べると多いまとなっています。区別の発生状況は緑区 (5.75/定点)で最多で、同区の4歳及び7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第44週の累積報告数は248件で、性別では男性が53.6% (133名)、女性が46.4% (115名)で、年齢階級別では4歳 (21.4%:53名)、5歳 (14.9%:37名)、6歳 (11.3%:28名)の順で多くなっています。



<感染性胃腸炎>

全国レベルの第43週は、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では大分県、宮崎県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第44週は前週より増加し4.33となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルです。例年の発生動向では、今後増加する傾向があります。区別の発生状況は中央区 (8.67/定点)で最多で、同区ではほぼ全ての年齢層での発生が報告されており、3歳で最も多く発生報告がありました。また中央区は、同区の過去10年の同時期と比べても多くなっています。今シーズンである2018年第36週から第44週の累積報告数は552件で、性別では男性が59.6% (329名)、女性が40.4% (223名)で、年齢階級別では1歳 (15.0%:83名)、6~11か月 (14.1%:78名)、2歳 (13.9%:77名)の順で多くなっています。

